

私のこの一冊

From My Bookshelf

地上の「聖書」

トクヴィル『アメリカのデモクラシー』(第一巻〈上・下〉、第二巻〈上・下〉)

西口敏宏

Nishiguchi Toshihiro

一橋大学イノベーション研究センター教授

20歳。政治学の授業。ふだん冷静な教授が、19世紀初頭に書かれた本書を、口を極めて絶賛。その真意が、学部生の私には、正直よくわからなかった。

40歳。アメリカの大学で教えていた頃、当時評判だったフランシス・フクヤマ著『歴史の終わり』を契機に、本書を再読。心を動かされた。その知的興奮が甘美なため、同じ箇所を何度も読み返してから、しぶしぶ先に進んだ。

60歳。担当する学部導入ゼミで、全巻約1400ページの本書を読み切る。授業準備の際、以前気付かなかった点も含め、その圧倒的な洞察力に心を揺さぶられ、涙があふれ出た。40歳ほど年若の履修生たちも、回を追うごとに私の隣席ににじり寄り、本書を称賛する私の言葉に、熱心に耳を傾けるようになった。

ドストエフスキーもシェークスピアもアダム・スミスも、これほど「進化する」感銘を、私に与えたことはなかった。

本書は、アメリカ論、民主主義論の古典としてだけでなく、政治、経済、宗教、社会等、およそ文明人として生き抜くために必須のあらゆる側面を、これ以上簡潔になりえぬ文体で論じ切った名著である。だが、その真価を味わうには、一定以上の人生経験が必要かもしれない。先駆的な論点をいくつか挙げておこう。

①人は認知限界によって必ず「誤る」ため(限定合理性)、②一見、非効率のようでも、意図的に権限を分散し、決議手続きを遅らせて、時間の叡智に期待する制度的工夫(コモンセンスの民主制)が必要、③人々がより自由となり、身分制による個人的な紐帯が薄れる一方で、市



- トクヴィル 著
- 松本礼二 訳
- 岩波文庫
- 定価 第一巻(上) 本体900円+税
(下) 本体1100円+税
第二巻(上) 本体780円+税
(下) 本体840円+税

場型経済人が誕生する(K・ポラニーの経済活動の分出)、④旧世界が説くあの世(死後)ではなく、コミュニティアンな協働作業によって、この世(現世)にこそ、至上の物質文明を実現するために、共同体を築く(ピューリタニズム)、⑤そのための技術力による際限なき自然改良(テクノロジー制覇、機械との競争)、⑥自己利益の追求によって、社会の

結束力が劣化することを矯正する、宗教の社会的意義(デュルケームの宗教儀礼論)、⑦究極的に、人民自身に由来するものを除くと、外部からの絶対権力を欠く民主社会の原動力は、人々の間に自発的に醸成され、共有される「習律」(今日言うソーシャルキャピタル)である——などが論じられている。

これらの論点は、出版から180年を経た今日も、数世紀後も、同じ重要性で人類を律し続けるであろう。革命後のフランスに貴族として生まれ、弱冠25歳の法務官としてアメリカを訪れたトクヴィルが、わずか9カ月の観察記録として書き上げた本書は、近代人の営みを根源的に読み解く、社会科学の「祖型的」古典であり、予言の書である。境遇が似通った者同士の自己統治の原理を明快に論じ、ダーウィン著『種の起源』同様、予備知識なしに読める本書は、19世紀半ば、科学的証拠によって「神が死んで」しまったダーウィン以降の、地上の「聖書」として、末永く読み継がれるであろう。[7]

西口敏宏 (にしぐち・としひろ)

1977年早稲田大学政治経済学部卒業。ロンドン大学修士、オックスフォード大学博士。MITおよびINSEAD研究員、ペンシルベニア大学ウォートン・スクール助教授等を経て、97年より現職。経済産業省、防衛省等の委員歴任。主な著作:『遠距離交際と近所つきあい』(NTT出版)、*Strategic Industrial Sourcing* (Oxford University Press、日経・経済図書文化賞ほか、アメリカの図書賞2件受賞)。